

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472100413		
法人名	社会福祉法人 安岐の郷		
事業所名	さわやかクラブ鈴鳴荘		
所在地	大分県国東市安岐町下山口58番地		
自己評価作成日	令和4年5月31日	評価結果市町村受理日	令和4年8月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和4年7月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で思うような活動が行えていないが、そんな中でもご利用者に楽しんでいただけるように、手作り弁当や時には購入した弁当などの食事の楽しみや、行事に関しては夏祭りはGH内で屋台を作りミニ夏祭り会を行った。
 初詣も同じ敷地内にある元気館に手作り神社を作ってくれたので、そこにお参りに行きぜんざいを食べたり、ひな祭りにはお内裏様とお雛様に仮装した職員がご利用者を楽しませた。
 外出は感染が減少している時に近くの菜の花や向日葵見学や、昨年は山香農業公園のコキアの見学にいたり、少しでも気分転換ができるようにした。
 また庭作りを少しずつ行っており、ミニ畑を作ったので、夏の収穫を楽しみにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者の個性を尊重した支援や、利用者間のコミュニケーションを大切にしたい見守り支援が行われている。
- ・日々の利用者支援や外出支援、職員の研修など、母体法人との連携や協力体制が構築されており、利用者の穏やかな生活や職員の質の向上に繋がっている。
- ・法人内の住み替えを行った利用者とも係わりを継続し、終末期・看取り期を迎えた利用者や家族とも、面会や連絡ノートを通じた途切れない交流支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・部署の品質目標は毎日出勤者が揃ってから唱和をしている。法人の理念はホーム内に掲示し品質目標は日誌に記載し、理念や品質目標に沿ったケアの提供が行えるように各職員意識している。	理念や品質目標を基にした、個々の職員の力と法人内の協力体制の強化が、コロナ禍での事業所運営に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域行事や買い物等に思うように行けていないが、GH横にあるゲートボール場で練習をされている地域の方と散歩途中や洗濯干しの際などに交流をする事がある。	地域交流が困難な状況が続くが、消防訓練時に顔を合わせた地域の人との交流や、入所申し込みに来所する家族から話を聞き、介護支援事業や他入所施設の紹介、介護者の視点に基づいたアドバイスが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事へ利用者に参加したり、グループホーム横のゲートボール場である大会に見学・応援に出かけたり、また地域の方が法人の盆踊りに参加したりし認知症の方の理解が深まるように努めているが、コロナ禍で交流等ができず活かせていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回行われる運営推進会議の中でパワーポイントに写真を使用しグループホームの日々の様子やヒヤリハット、全体の避難訓練などの活動報告を行っている。出席者の方より意見や感想等をいただく意見交換の時間を設け、発生した課題に対して改善へとつなげている。	地域の複数の役員やボランティア、行政職員など多くの委員が運営推進会議委員として関わっている。会議の議案審議からの議事進行を委員が担っている。各委員の前職を生かした提案やアドバイスが事業所運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、その中で日々の取り組みを報告し意見交換を行っている。	運営推進会議には高齢者支援課職員が出席している。国東市や国東市民病院から、コロナ禍での事業所運営のアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修等の研修で全職員が身体拘束廃止について認識している。毎日ワーカー日誌に玄関の開錠時間を記入し、施錠した時間があれば時間と理由を記入している。月末で開錠時間、開錠率を出し部署内会議にて報告を行っている。	外出傾向の利用者が安全に移動できる誘導の工夫や、職員と一緒にゴミ出しをする等、抑圧感のない生活支援に努めている。研修は、全職員が受講できるよう法人全体で計画的に企画されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度虐待防止について法人全体で職員研修会を行うとともに毎月の部署内会議にて接遇や自分自身の1ヶ月間を振り返り、言葉遣いや不適切な対応がなかったかを、会議にて報告を行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等があった際には参加をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約解除時は説明を行い、説明後は疑問等を確認し納得が得られた後に署名と捺印をもらうようにしている。また利用者や家族からの不安や質問に対して解消出来るように丁寧な説明を行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートや運営推進会議や家族の面会時に意見や要望等があれば都度聞き利用者のケアに繋がるように取り入れている。	ケアプラン作成時、利用者や家族から話を聞き、ケアプランや日常生活支援に活かしている。毎月、家族に広報誌と担当職員の記載した状況報告を行っており、面会時や年度末のアンケートでも意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の面談を年に2回実施しており、その中で自由に意見や提案を行える雰囲気作りをしている。また日常業務の中でも誰もが意見を言える環境作りに努めている。	個々の職員は、利用者の個性に合わせた支援やアイデアを提案し実践に繋げている。今年度は職員の提案により、感染対策での手洗い場設置やクーラーの新設が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の実績考課表の記入を行っている。実績考課表に基づき面談を行い職員のスキルアップ各資格取得に合わせて手当の支給が行われている。またそれ以外でも必要に応じて面談も行う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に行なわれている内部研修に毎回ほぼ全職員が参加している。また個々に合わせた内容の外部研修にも参加している。新人職員へは職員が一定期間エルダーとして付き指導や助言を行い職員育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し事例検討やグループワークを通して意見交換を行ったり交流を図り、他施設の意見を持ち帰りサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には利用者を訪問面談し、会話の中より不安な事や要望等を聞き取るようにしている。また傾聴と共感に心がけ、遠慮なく話せる雰囲気を作り安心してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴や共感を行いながら家族の不安や要望を聞き、一緒に解決策を考え要望を取り入れながら信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前のアセスメントで本人や家族が必要としている事や意向を確認し、また介護支援専門員や医療機関等の各種関係機関より情報を収集し入所後の支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しや洗濯たみに、草むしり、掃除等の日常生活の家事を利用者の状態に合わせて一緒に行ってもらっている。自ら率先して行っ下さる利用者もおられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で家族と過ごす時間が減っているが、窓越しやタブレット面会で少しでも顔が見れる様に、また家族より職員に電話があった際は可能な限りご利用者に変わるなどして。病院受診などでは対応可能な家族にはお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のスーパーへ買い物に出かけたり、ふるさと訪問など行っていたが、コロナ禍で行えていないため、落ち着いたら再開していきたい。	年賀状や手紙での交流や、電話での家族連絡時には、交代し会話を勧めている。職員が、同一敷地内の特別養護老人施設に住み替えた利用者に会いに行き交流する等、事業所での馴染みの関係が大切にされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	季節の作品作りやお経、パズルや学習療法などレクリエーション活動に参加してもらったり、歌の得意な方にはその方が中心になって歌を行い利用者同士の触れ合いが持っている。廊下のソファでは利用者同士で会話する時間などを持っていたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の重度化に伴い併設の特養へ移動した際には行事で会った際には声掛けや、他の利用者と一緒に面会に行き会話を図り利用者同士、職員との関係性が途切れないようにしている。特に看取り期はほぼ毎日、声を掛けに行くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人に希望や意向を聞き取ったり、日々の会話の中で本人の希望や意向を掴み取ったりして把握に努めている。困難な場合には家族にこれまでの情報を聞き把握するように努めている。	事業所利用開始時に、管理者や介護計画作成担当者が、家族や利用者や面談し話を聞いている。また、入居前に利用していた事業所職員や医療機関からの情報も記録されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族からこれまでの生活の様子を聞き取りを行いアセスメントシートに記入している。職員が把握しケアの中に取り入れる事で入所後もこれまでの生活を継続していけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の利用者の状態を総合記録表と日誌に記録をし職員は出勤時に総合記録表と日誌をみて利用者の状態把握を行い情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年ごとにケアプランの作成を行っておりケアプラン作成前には利用者本人と家族に意向の確認を行い、意向をケアプランに反映させている。モニタリングについては3ヶ月に1回行い、それぞれカンファレンスを開き意見を出し合いケアに繋げている。	ケアプラン作成時、利用者や家族から意見や要望を聞き、ケアプランに活かしている。日々の記録にプランが記載され、職員のチェックが行われている。カンファレンスは管理者・ケアマネージャー・職員が参加し、ケアプランの検討が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合記録表にケアプランの実施状況を記録している。また日常や夜間の様子を記録し情報の共有を行い、会議にて話し合いをし利用者に向けた介護計画の見直しを都度行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対してはその時々状況に応じて可能な限り柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でボランティアの方や地域のスーパー等へ思うように行けていないが、ゴミ捨てなどに一緒に行ったりし生活をしているという意識を持っていただけるような支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人や家族に主治医の確認を行い、希望に沿った対応を行っている。主治医によっては月に1回の往診が行われたり、家族と一緒に定期受診されたりしている。	希望する掛かりつけ医対応が行われている。受診は、職員二人体制で対応しており、法人内で、車両や同行職員の協力支援も行われている。近医の訪問診療により、健康管理や病状支援を受ける利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の心身の状態や1日2回のバイタル測定で状態の変化があった際は報告を行い必要に応じて受診や対処を行っている。また夜間帯は担当看護師にオンコールを行い指示を受けている。コロナ禍で部署間の行き来の制限があった際は必要データを送り指示を仰いでいた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は協力医療機関に利用者の状態を連絡票を使用し提供する。また連携室や病棟の担当看護師と利用者の病状や治療状況について細目に連絡を取りながら、早期の退院に向けて調整を行っている。退院前には病院でICを行い、病状や退院後についての説明が行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者入所時の契約の際に重度化した際や終末期についての説明を行っている。入所後は利用者の身体状況に応じて本人や家族に今後の意向を確認し、主治医や多職種、併設の特養と連携を図っている。	事業所利用開始時に、事業所方針を伝えている。介護度の重度化による特別養護老人施設への住み替え支援も行われている。特別養護老人施設に住み替え後も終末期看取り期を迎えた利用者に面会に行ったり、職員や家族共有の連絡ノートでの交流も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて全職員看護師より急変時の対応を学び、一人ひとりが研修内にて心肺蘇生法やAED、酸素や吸引器の取り扱い等の実践を通して学んでいる。また急変時に必要な物品の確認や置き場所の確認も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に運営推進会議役員や消防署、消防設備業者と一緒に昼夜を想定した避難訓練や通報訓練・消火訓練等を行っている。職員連絡網の訓練も実施されている。	年2回消防署対応での避難訓練が行われている。避難に掛かる時間を測定したり、避難方法や居室確認等のアドバイスを受けている。法人全体でのライン通達訓練や行方不明者の通報訓練も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣い、声かけや対応を行うように日頃より意識して行っている。不適切な言葉遣い等は職員同士で注意し合えるよう努めている。またプライバシーに関わる内容は本人や他利用者の居る前や大きな声で話さないように努めている。不適切チェックリストを毎月チェックして自己反省をしている。	計画的な研修で、利用者への声掛けや対応について学びの場を持っている。また職員個々で、不適切チェックシートによる具体的な場面での自身の発言や行動の再確認を行うなど人格の尊重や尊厳を大切に支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物や飲みたい物はもちろん、入浴はどうするかや1日何をして過ごしたいかなど常に会話を通して希望を聞いている。言葉での意思表示の難しい方は声掛け時の表情や仕草で思いを汲み取って支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間は極力本人のペースに合わせて対応している。日中の過ごし方も声かけを行いながらその時々状態に合わせて対応している。必要に応じて昼寝を勧めたりして1日を有意義に過ごしていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせた髪の毛のセットや、朝や入浴後の衣類の上下の柄や色のコーディネートを提案したりしその人らしくなるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食はグループホームで作り食べたい物を聞き材料等揃えば提供する。また行事食や季節の旬の食材を使い食を通じて季節を感じてもらったりしている。誕生日にはその方の好きな物や食べたい物のリクエストに合わせた料理を提供している。	食の楽しみとして、旬の食材や差し入れ食材を活用した昼食が作られ、ワンプレートや弁当容器に盛り付けて提供する工夫が行われている。利用者に合わせた食器配置の工夫や持ち手付き食器を利用する等、食事が生活リハビリにも繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量や水分摂取量を総合記録表に記入し摂取量の把握を行っている。それぞれの食事形態や苦手な物など個々に合わせて提供し、茶碗類は食べやすさや飲みやすさで食器を変えている。水分摂取量の少ないかたにはお茶ゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けや介助を行い、口腔の状態に合わせ必要な方にはマウスウォッシュを使用している。また口腔内の観察を行い異常があれば歯科衛生士に報告をし口腔内の清潔に努めている。月に1度の歯科医による回診もあり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を見ながら個々の排泄パターンや量を掴み、排泄の時間をみて声掛けトイレ誘導を行っている。また時間によって排泄量が違うため、排泄量に応じたパッドの種類を変えている。	共用空間に4カ所のトイレがあり、全利用者がトイレでの排泄を行っている。利用者の心身の状況や性格に合わせて排泄確認や着脱支援を行っている。夜間時のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材の使用や、ヨーグルトやミルミルの提供を行い、水分はオリゴ糖を使用した物を提供している。朝食後のトイレ誘導や、体操や腹部マッサージを行ったり、排泄しやすい姿勢をとってもらったりし、薬に頼らないでトイレでの自然排便を促せるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を基本とし入浴の声掛けを行っている。拒否をされる方もおられるが、時間をおいて再度声掛けを行ったり、他の職員が声を掛けたり、席をたれたタイミングで声を掛けるなど工夫してをし入浴出来る様に努めている。また入浴ができなかった方は陰部洗浄を毎日行っている。	週3回の入浴対応が行われている。利用者の身体状況に合わせ2種類の椅子が準備され、職員間での声掛けや誘導の工夫により、気持ちよく入浴できる支援体制が図られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早い方は18時半から、遅い方で22時までスペースで過ごされる方と様々で、個々の就寝時間に合わせている。就寝時間までは新聞やTVを見たり職員と話したりして過ごされる。寝具や室温調整を行い快適に過ごせるように努めている。夜間帯に眠りが浅かった際は昼寝を促したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際には作用や副作用等の確認を共有し、内服薬を把握するように努めている。また薬の変更があった際には薬の変更を看護師に報告している。またいつから変更があったのかを記録に残し、その後の利用者の状態把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭や草花の手入れや裁縫、新聞折りや料理や掃除など得意な事やできる事を行ったり、塗り絵やパズル・学習に読書の好きな方はそれぞれを行い楽しみを持たれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出がほとんど行えなかったが、屋外でのコキアや菜の花、ひまわりや桜見学へ行く事ができた。また庭での日光浴やGH周辺の散歩を行い気分転換を行っている。	前回の目標達成計画として取り組まれている。法人の車両や職員の協力体制により、集団での外出支援が行われている。また、日頃の支援や職員が草むしり作業をする際など、日常的に外気を楽しむ機会が持たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理している方はいないが、小口現金として家族より預かり、個人的な買い物で使用したり、受診時の支払いで使用。家族へは定期的に出納帳を確認してもらいサインをもらうようしていたがコロナ禍で面会制限があるため、出納帳のコピーを送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際はもちろんの事、施設から連絡する際に本人に電話を代わる事も促している。字が書けるかたは施設からの便りと一緒に手紙を書いていたいたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	所々に季節の花や利用者と一緒に作成した作品を展示して荘内でも季節を感じていただいている。冷房も風が直接当たらないようにファン取り付け環境温度にも気を付けている。利用者が混乱することなく、また喜んでいただけるような配色やお知らせなど工夫をしている。	利用者の集う場や共用空間は、換気や空調の調整、動線の配線コードや家具配置等、感染対策や安全面の配慮が行われている。複数の利用者が共用トイレの順番待ちをする際、順番を譲り合ったり、ソファーに掛けて穏やかに会話を交わす様子が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やスペースにソファーを配置しゆっくりと寛いだりテレビを見たりできる空間作りを行い、寛ぎながら利用者同士が会話を楽しまれている。また所々に季節の花や作品を展示して季節を感じていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテーブルや椅子、テレビ等使い慣れた物や自宅で使われていた物を持ち込まれたりしている。家族写真や手紙、思い出の品を飾られたり居室を自由に使用していただいている。廊下のソファーや居室の椅子では利用者同士で談笑される姿もある。	利用者の個性に合わせた居室づくりが行われている。利用者の心身の状況に合わせて、ベッドの配置を変えたり、椅子の配置の工夫をしており、また、安全を配慮した室外への移動動線づくりも行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で動ける方はトイレやお風呂場等分りやすいように表記している。またトイレも4か所あるが、なるべくそれぞれに合わせ決まった場所を使用していただく事で認識していただいている。		